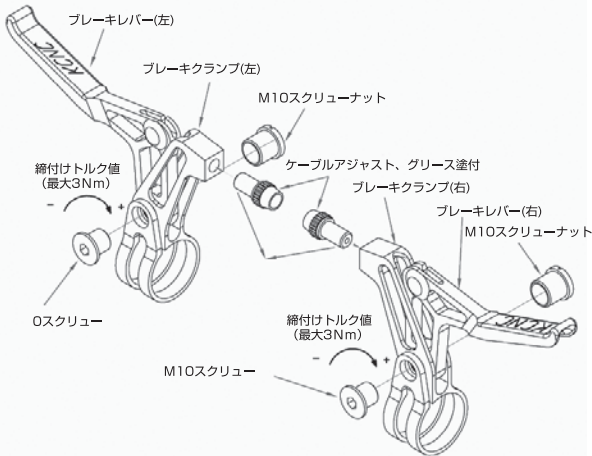


ケーシーエヌシー

KCNC Vブレーキレバー取扱い説明書

KCNC Vブレーキレバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。
下記の取扱い説明を良く読んでから取付作業をして下さい。
間違った取り付け方をすると予期しない故障で重大な怪我をすることがあります。
お買い上げいただいた自転車販売店での取り付けをお勧めします。
間違った取り付け方に起因する故障、怪我には一切の責任を負いかねます。

KCNC Vブレーキレバーはブレーキワイヤーに均一な張力を与えたとときに最適に作動するように設計されています。
ブレーキレバーの端面ではなく平ら部分を握ってレバーを作動させたととき最適になります。
ブレーキレバーを最大に握り込んだとき握った指がレバーの平ら部分に位置しているのが望ましい状態です。
もしブレーキレバー端面に指がかかる状態であればブレーキレバー本体の位置を調整して下さい。
ブレーキレバーの最適な位置合わせをすることで確実にレバーからブレーキ本体に最大張力を伝達させます。



ブレーキレバー取付方法

ブレーキレバーを上記注意事項を参照してハンドルバーに取り付けて下さい。
上記のM10スクリューとスクリューナットを締め込んでハンドルバーに固定して下さい。
スクリューとスクリューナットはブレーキレバー本体とレバー部分のピボットとしても機能することを考慮して下さい。
なので必要以上に強い力で締め込まないで下さい。
ケーブルアジャストを緩めてレバー本体にブレーキワイヤーをセットして下さい。
ブレーキワイヤーに軽く注油してワイヤーがレバー本体に引っかからないように、またブレーキアウトター端面との接触部分がスムーズに作動するようにして下さい。
ブレーキワイヤーが安定した位置でブレーキ本体に固定できるようにレバーの溝に沿わせてからケーブルアジャストを締め込んで下さい。

ブレーキ調整

リムブレーキとの組み合わせでは、ブレーキワイヤーをブレーキアウトターに通してフレームに装着して下さい。
ブレーキワイヤーをブレーキ本体に固定するときにはワイヤーの遊びをできる限り引張って無くして下さい。
メカニカルディスクブレーキとの組み合わせでは、ブレーキワイヤーをブレーキアウトターに通してフレームに装着して下さい。
その際はアウトターワイヤーがたるんだり邪魔したりしないようにフロントフォークやフレームのチェーンステー等にタイラップで固定することをお勧めします。
KCNC Vブレーキレバーはリターン springs プリングがありません。
Vブレーキ、メカニカルディスクブレーキ本体のパネ力をワイヤー張力として利用しています。
ブレーキレバーの引きが緩い場合は、ブレーキワイヤーが外れないように確認しながら本体のパネ力を強く調整して下さい。
レバーのケーブルアジャスターはブレーキパッドとホイールリムとの間隔微調整用ですのでブレーキワイヤー張力の調整には使わないで下さい。

次いでブレーキレバーをブレーキパッドがホイールリム/ディスクローターに当たるまでゆっくりと握って下さい。
ブレーキパッドがホイールリム/ディスクローターに接触するまでのブレーキレバーの稼動距離が1-2cmが適正な調整です。
(レバーの稼動距離は誤ってブレーキを作動させない1cm以上に調整することをお勧めします。)
このようにブレーキ調整をするとレバーの全稼動距離を十分な制動力で使用することができます。
すべてのVブレーキ/メカニカルディスクブレーキのボルト類を増し締めして再度ブレーキレバーを強く握ってブレーキワイヤーが緩まないことを確認してからテスト走行して下さい。

最終確認作業

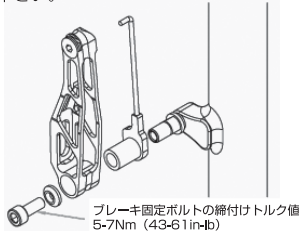
最初に説明した通りこのブレーキレバーはハンドルバーに水平に握られたときに最適に作動するように設計されています。
ブレーキレバーに強い力を入れてブレーキングしたときにレバー本体が上または下に動いてしまうことがあります。
この場合はブレーキレバーの位置、角度の調整が握っている位置と合っていないことで起きています。
この場合はM10スクリューとスクリューナットを緩めて再度レバーの位置、角度調整をして下さい。
このときに規定以上にナット類を締め過ぎないで下さい。
レバー位置、角度が合っていないとブレーキ本体に制動力を加えずにレバー本体を動かす力に加えていることがあります。

KCNC フロント/リア Vブレーキ取扱い説明書

KCNC フロント/リア Vブレーキセットをお買い上げいただきましてありがとうございます。
下記の取扱い説明を良く読んでから取付作業をして下さい。
間違った取り付け方をすると予期しない故障で重大な怪我をすることがあります。
お買い上げいただいた自転車販売店での取り付けをお勧めします。
間違った取り付け方に起因する故障、怪我には一切の責任を負いかねます。

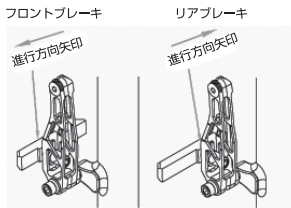
1. ブレーキ本体の取付。

フレームのブレーキ台座はきれいでも汚れなどが無い状態して下さい。
台座に軽くグリスを塗ってブレーキを台座に入れて下さい。



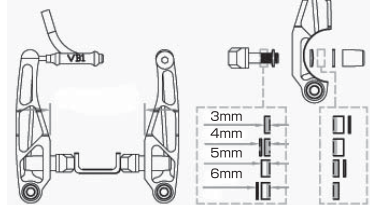
2. ブレーキパッド初期設定。

重要：ブレーキパッドをフロント用、リア用と正しく取り付けて下さい。
パッドホルダー上部に進行方向の矢印があります。



3. ブレーキパッド水平調整スペーサー。

ブレーキパッドがホイールリムに触れるまでVブレーキアームを動かして下さい。
左右のブレーキアームはお互いに平行で垂直である必要があります。
ブレーキパッドを内側、外側に移動できるように4種類(3、4、5、6mm)のスペーサーワッシャーが用意されています。

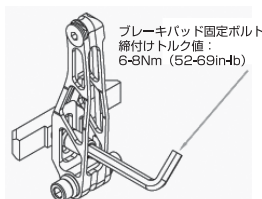


ブレーキパッド垂直調整。



ブレーキパッドをホイールリム端から1mm低い位置で平行当たるように調整して下さい。

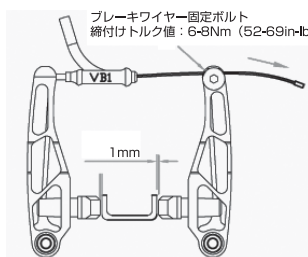
5. 最終位置調整。



ブレーキパッドの前部を後部よりも1mmリム方向に狭く調整して下さい。
ブレーキパッド固定ボルトを締めトルク値6-8Nmで締め込んで下さい。
ブレーキアームがホイールリム方向に作動したときにブレーキパッド前部が後部よりも先にホイールリムに当たるとブレーキ鳴りを抑えることができます。

6. ブレーキワイヤーの固定。

ブレーキアウトターノードル管を通正位置に引っ掛けてブレーキパッドとホイールリムの隙間が1-1.5mmになるようにブレーキワイヤーを引っ張って固定して下さい。
ホイールを回転させてホイールリムが振れていないか、調整が必要か確認して下さい。
ブレーキワイヤー固定ボルトを締めトルク値6-8Nm(52-69in-lb)で締め込んで下さい。



7. ブレーキのテスト。

ブレーキワイヤー固定ボルト締めトルク値：6-8Nm (52-69in-lb)



ブレーキレバーを12回以上強く握って正しく作動すること、ブレーキワイヤーがスムーズに動くことを確認して下さい。
ワイヤー固定ボルトが緩んでいないか、ブレーキパッドの位置が動いていないか確認して下さい。
必要であればワイヤー固定ボルトを再調整して再締め込みして下さい。